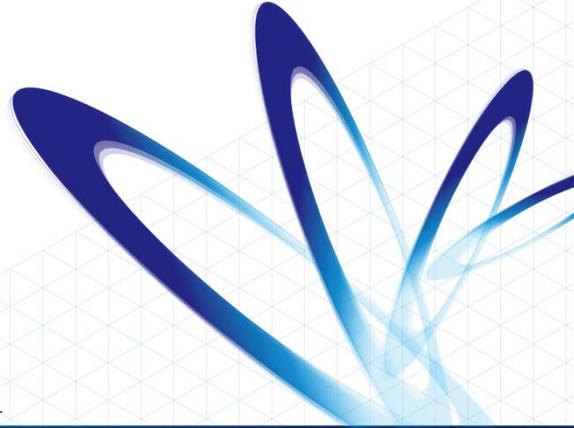


2019年度（2020年3月期） 第3四半期 決算説明会

2020年 1月 31日
セイコーエプソン株式会社



■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新製品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 事業利益について

事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の営業利益とほぼ同じ概念であることから、連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を切り捨て 比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

年号：断りが無い限り、会計年度を示す

- 2019年度 第3四半期決算
- 2019年度 通期業績予想
- 成長に向けた取り組みの進捗

2019年度 第3四半期決算 | ハイライト



	2018年度		2019年度		前年同期比		
	(億円)	3Q実績	%	3Q実績	%	増減額	増減率
売上収益		2,966		2,798		-168	-5.7%
事業利益		309	10.4%	176	6.3%	-132	-42.9%
営業利益		325	11.0%	176	6.3%	-148	-45.7%
税引前利益		319	10.8%	173	6.2%	-146	-45.7%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益		257	8.7%	122	4.4%	-134	-52.3%
EPS ^{*1} (円)		72.98		35.47			
為替レート (円、指数)	USD	¥112.80		¥108.72			
	EUR	¥128.73		¥120.35			
	その他通貨 ^{*2}	100		93			
		前年同期に対する 為替影響額 (億円)		USD	EUR	その他 通貨合計	合計
		売上収益		-29	-30	-37	-97
		事業利益		+7	-19	-19	-31

*1 EPS: 基本的1株当たり当期利益

*2 その他通貨の各レートを為替ボリュームに応じて加重平均した値について、前年同期を100とした指数

3

- 第3四半期の実績はご覧の通りです。
- 売上収益は、前年同期比 168億円 減収の 2,798億円、事業利益は、132億円 減益の 176億円、四半期利益は、134億円 減益の 122億円 となりました。
- 当四半期の為替変動による影響額はスライドの通りです。
- その他の通貨では、人民元やブラジルレアルなどを中心にマイナスの影響を受けました。

売上収益

戦略商品の拡大は継続したものの、多くの商品で低調な市況の影響や為替影響を受け減収

- + 大容量インクタンクモデル、オフィス共有IJP、サイネージ・テキスタイル向け商業・産業IJPは増収
- インクカートリッジモデル本体・インク、SIDMなどは減少
- プロジェクターは市況悪化が長期化
- アナログクオーツウオッチ市場の停滞継続

事業利益

売上収益の変動影響や為替影響のほか、在庫増減影響や特許料収入の減少影響などにより減益

売上収益

プロジェクターなどでの市況悪化影響があったものの、為替のプラス影響により連結合計で予想通り

事業利益

費用投入の抑制・削減を進めたことに加え、為替のプラス影響もあり予想を上回る

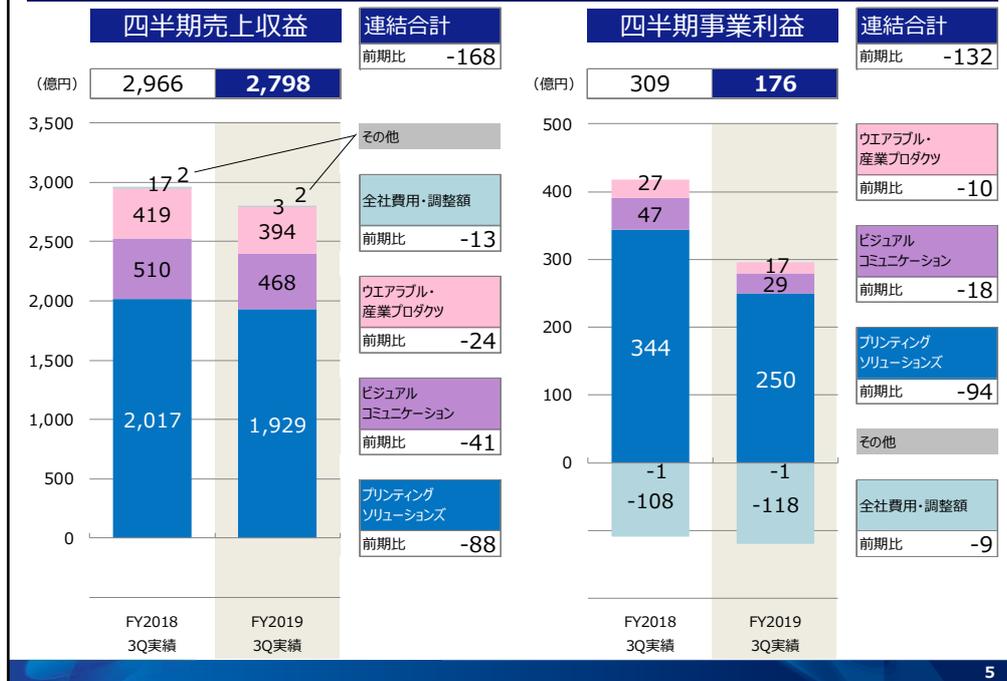
前年同期比

社内計画比

4

- 第3四半期決算のポイントについてご説明します。
- 売上収益は、大容量インクタンクモデルやオフィス共有IJP、サイネージ・テキスタイル向けの商業・産業IJPなど、戦略商品の拡大は継続したものの、インクカートリッジモデル本体やインク、SIDMの減少のほか、プロジェクターの市況悪化やアナログクオーツウオッチ市場の停滞などの影響を受けたことなどに加え、為替のマイナス影響もあることから減収となりました。
- 事業利益は、戦略商品の増収影響はあるものの、それ以外の商品での減収影響や、為替のマイナス影響に加え、在庫削減が進まなかった前年同期に対して、今期は計画通り在庫を削減している影響や、特許料収入の減少などがあったことで減益となりました。
- 社内計画に対しては、売上収益は、プロジェクターの市況悪化の影響による販売未達などもありましたが、前提に対しては円安であったことによるプラス影響があり、連結合計では予想通りとなりました。
- 事業利益は、より一層の費用削減や執行時期の見直しを実施したことに加え、為替のプラス影響もあり予想を上回りました。

2019年度 第3四半期実績 | 事業セグメント別



- こちらは、当第3四半期におけるセグメント別の売上収益、事業利益の前年同期比較です。
- 以降のスライドで、セグメントごとの詳細をご説明します。

(億円)

プリンティングソリューションズ	2018年度 3Q実績	2019年度 3Q実績	前年 同期比	為替 影響額
売上収益	2,017	1,929	-88	-66
プリンター	1,438	1,340	-98	
構成比 IJP*1	85%	85%		
SIDM	7%	6%		
その他	8%	9%		
プロフェッショナルプリンティング	531	518	-12	
その他	47	70	+22	
事業間売上収益	-0	-0	+0	
セグメント利益	344	250	-94	-17
セグメント利益率	17.1%	13.0%		
◆ 主要製品の販売動向 (社内管理値に基づく指標)				
IJP本体 売上収益		YoY伸張率	円貨 -1%	現地通貨 +3%
IJP本体 販売数量		YoY伸張率		+2%
IJPインク 売上収益		YoY伸張率	円貨 -12%	現地通貨 -9%
IJP内 オフィス共有IJP*2 売上収益		構成比	8%	
プロフェッショナルプリンティング内 商業・産業IJP 売上収益		構成比	66%	

<プリンター>

◆ IJP:

- ・大容量インクタンクモデルは、エマージング地域・先進国ともに販売数量増加
- ・オフィス共有IJPは順調に拡大
- ・SOHO・ホーム向け本体・インクが減少

◆ SIDM:

- ・中国中心に需要減少

<プロフェッショナルプリンティング>

◆ 商業・産業IJP:

- ・サイネージ・テキスタイルなど堅調

◆ POSプリンター:

- ・イタリアでの需要増は一服

<その他>

◆ PC:

- ・OS切り替え需要獲得

*1 IJPには、大容量インクタンク、SOHO・ホーム、オフィス共有を含む

*2 オフィス共有IJP：高プリントボリュームオフィス向けプリンターI/Cモデル、RIPS、LDの本体・インクを含む。役務・有償サービスは除く

- プリンティングソリューションズの前年同期比較は、ご覧の通りです。
- プリンター事業では、大容量インクタンクモデルやオフィス共有IJPの増収が続きました。
- 大容量インクタンクモデルは、一部地域での政情不安やインドなどの市況回復遅れの影響はあるものの、中国やブラジルなどの主要国で販売を伸ばし、エマージング地域全体では順調に拡大しました。さらには、プロモーションを強化していた北米や、欧州、日本などの先進国でも大きく伸長し、グローバル全体で前年同期比20%以上の販売台数増加となりました。
- 一方で、インクカートリッジモデルの本体やインクが減少していることで、インクジェットプリンター全体では減収となりました。
- SIDMは中国を中心に減収となりました。
- プロフェッショナルプリンティングは為替のマイナス影響により減収となりました。
- 商業・産業IJPは、サイネージ、テキスタイル向けを中心に堅調な販売が継続しました。
- POSプリンターは、上期に発生していたイタリアでの税制改定に伴う需要増が一服したことで、大口案件があった前年同期から減少しました。
- その他の増収は、OS切り替えに伴うPCの更新需要が継続したことによります。
- セグメント利益は、大容量インクタンクモデルやPCなどでの増益はあったものの、インクカートリッジなどの減収影響に加え、在庫増減の影響もあったことで減益となりました。
- なお、セグメント利益のうち、プリンター事業が占める割合は、5割半ば程度となりました。
- 社内計画に対しては、SIDMやPOSプリンターなどで販売は弱含んで推移しましたが、為替のプラス影響もあり計画並みとなりました。
- 一方で、セグメント利益は、為替の影響や費用抑制に努めたことで計画を上回りました。

(億円)				
ビジュアルコミュニケーション	2018年度 3Q実績	2019年度 3Q実績	前年 同期比	為替 影響額
売上収益	510	468	-41	-21
セグメント利益	47	29	-18	-8
セグメント利益率	9.4%	6.3%		

◆ プロジェクターの販売動向（社内管理値に基づく指標）

本体	売上収益	YoY伸長率	円貨 -7%	現地通貨 -3%
本体	販売数量	YoY伸長率		-4%

(億円)				
ウェアラブル・産業プロダクツ	2018年度 3Q実績	2019年度 3Q実績	前年 同期比	為替 影響額
売上収益	419	394	-24	-9
ウェアラブル機器	140	120	-19	
ロボティクスソリューションズ	51	52	+0	
マイクロデバイス他	239	235	-4	
事業間売上収益	-11	-13	-1	
セグメント利益	27	17	-10	-4
セグメント利益率	6.6%	4.4%		

◆ プロジェクター：
・市況悪化が継続
・スタンダードモデルを中心に減少

◆ ウォッチ：
・中・低価格帯ウォッチ、
ムーブメント減少

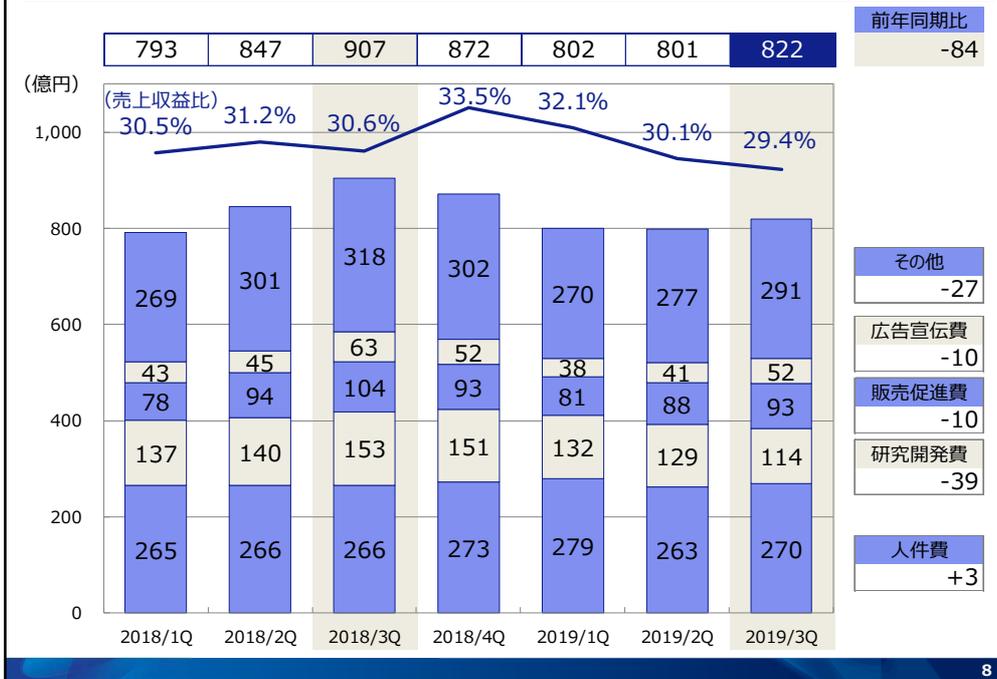
◆ ロボット：
・各国での需要停滞は継続
・中国向けで案件獲得

◆ マイクロデバイス他：
・半導体はファンドリ需要堅調
・水晶デバイスは民生機器、
通信機器など堅調

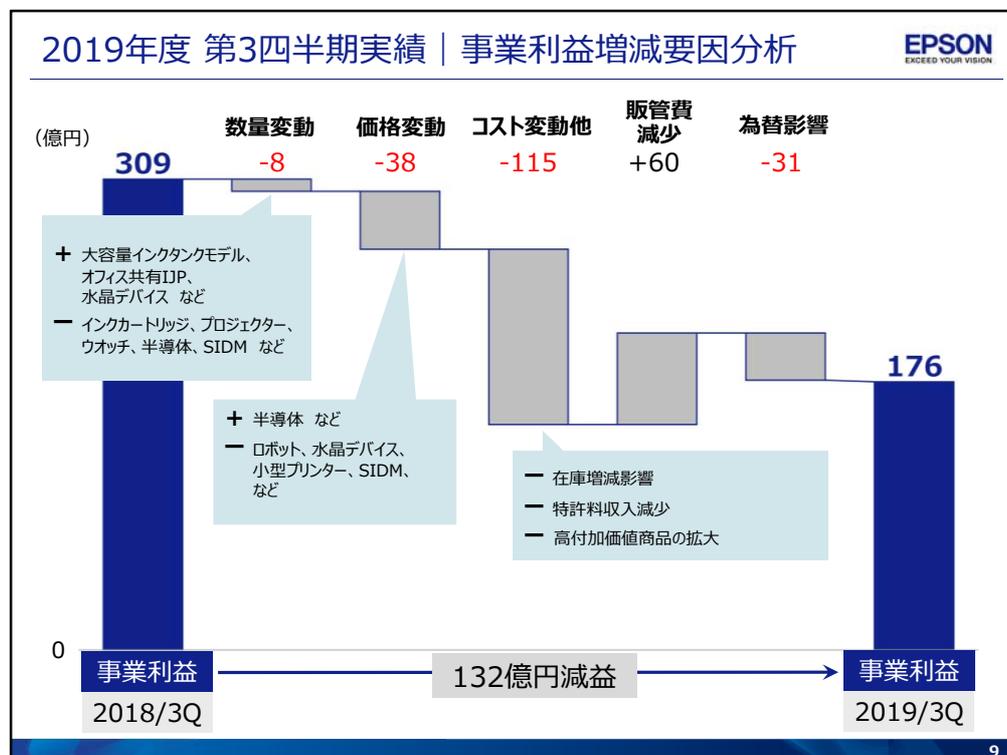
- ビジュアルコミュニケーションは、販売数量が減少したことに加え、為替のマイナス影響もあり減収・減益となりました。
- プロジェクターは、FPDの低価格化が進行していることで、スタンダードモデルを中心に市況が悪化しており、米州や中国などで販売への影響を受けました。
- また、社内計画に対しては、売上収益は未達となりましたが、事業利益は費用抑制に努めたことで計画通りとなりました。

- ウェアラブル・産業プロダクツの実績はご覧の通りです。
- ウェアラブル機器は、高価格帯ウォッチは増加しましたが、中・低価格帯ウォッチが減少しました。
- ロボティクスソリューションズは、各国で投資抑制に伴う需要の減少がありましたが、中国向けに大口案件の獲得や米州の新規顧客の獲得が進んでいることなどにより、前年同期並みとなりました。
マイクロデバイス他は、為替のマイナス影響を受けながらも、半導体でファンドリなどで底堅い需要があったことや、水晶デバイスもヘッドフォン向けや通信基地局向けなどが増加し、前年同期並みとなりました。
- セグメント利益は、ウェアラブル機器は費用削減を進めていることで前年同期並みとなったものの、ロボティクスソリューションズで費用投入を進めていることなどにより、セグメント全体では減益となりました。
- また、社内計画に対しては、売上収益、事業利益とも、概ね計画通りとなりました。

販売費および一般管理費 主要科目別推移

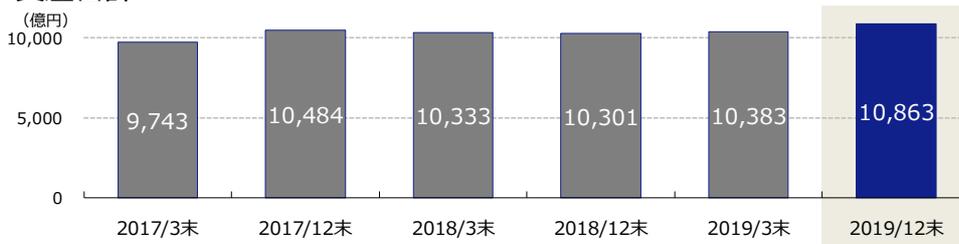


- 販売費及び一般管理費の四半期推移は、ご覧のとおりです。
- 研究開発費、広告宣伝費、販売促進費などは、メリハリを効かせながら、効率的な執行に努めています。

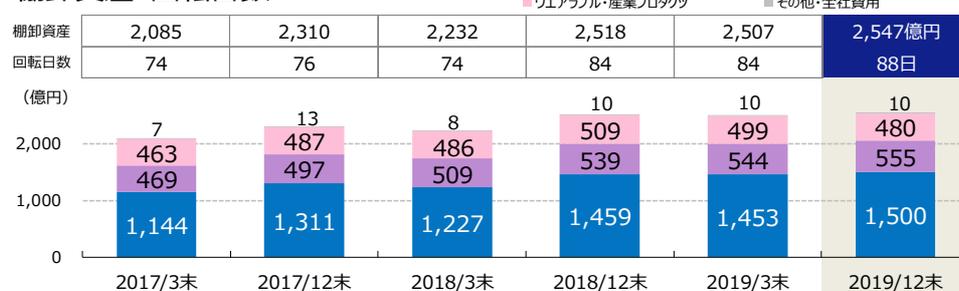


- 事業利益の増減要因分析は、ご覧のとおりです。
- 数量変動は、大容量インクタンクモデル、オフィス共有IJP、水晶デバイスなどでプラスとなりましたが、インクカートリッジ、プロジェクター、ウォッチ、半導体、SIDMなどでマイナスとなりました。
- 価格変動は、半導体などでモデルミックス変動によるプラスがあった一方で、主に、ロボット、水晶デバイスなどでモデルミックス変動によるマイナスがありました。なお、大容量インクタンクモデルは、第2四半期までの状況と大きな変化はありません。地域ごとには価格対応を実施しているものの、WiFi付などの高付加価値モデルの増加や、先進国比率の上昇により、全体では大きなマイナス影響は発生していません。
- コスト変動他は、高付加価値商品の増加に伴うコスト増加もありますが、在庫増減による影響が大半です。

資産合計

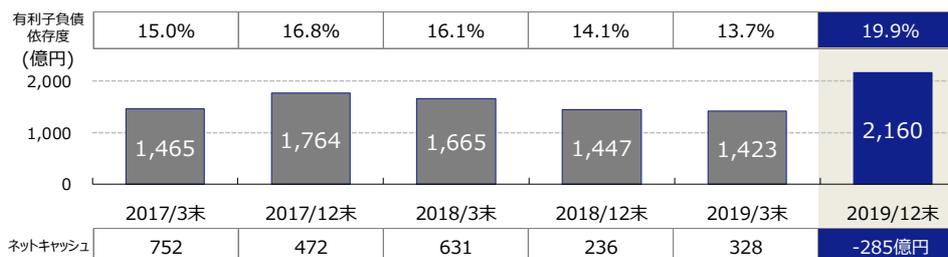


棚卸資産・回転日数

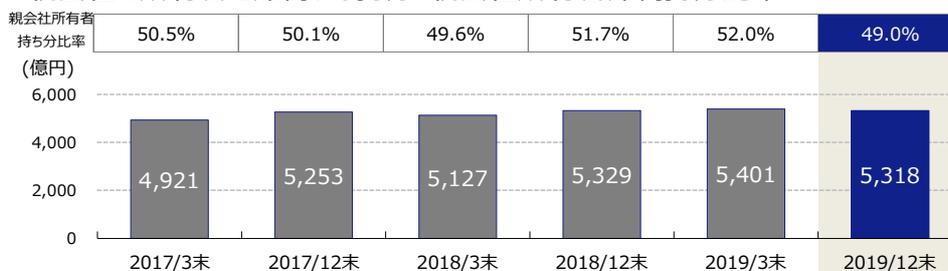


- 財政状態計算書の主要項目について、ご説明します。
- 資産合計は、前連結会計年度末に対して479億円増加し、10,863億円となりました。
- これは、新リース会計基準の適用などによる有形固定資産の増加、現金及び現金同等物の増加があったことなどによります。
- 棚卸資産は、前期末に対して39億円増加し、2,547億円となりました。
- 在庫に関しては、全社の重点活動の一つとして活動しております。
- 9月末からの削減は計画通り進んでおりますが、年度末に向けては、一層の削減を進めていきます。
- なお、在庫削減に伴って、第4四半期も前年同期に対して事業利益へのマイナス影響が見込まれますが、キャッシュ創出に向けてやり抜いていきます。

有利子負債・有利子負債依存度、ネットキャッシュ



親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者帰属持分比率



- 有利子負債は、社債の発行や借入金の増加のほか、新会計基準適用によるリース負債分が 295億円が含まれたことなどにより、前期末に対して 737億円増加し、資産合計の有利子負債依存度は 19.9%となりました。
- ネットキャッシュは、有利子負債の増加に加え、自己株式取得に伴う支払い増もあり、285億円のマイナスとなりました。
- 親会社の所有者に帰属する持分は、配当金の支払、自己株式の取得などにより、前期末に対して83億円減少し、親会社所有者帰属持分比率は、49.0%となりました。

- 2019年度 第3四半期決算
- 2019年度 通期業績予想
- 成長に向けた取り組みの進捗

2019年度 通期業績予想 | ハイライト

	2018年度		2019年度				増減額		
	(億円)	実績	%	10/30予想	%	1/31予想	%	前期比	10/30予想比
売上収益		10,896		10,600		10,600		-296	-
								-2.7%	-
事業利益		704	6.5%	420	4.0%	420	4.0%	-284	-
								-40.4%	-
営業利益		713	6.5%	370	3.5%	370	3.5%	-343	-
								-48.1%	-
税引前利益		720	6.6%	360	3.4%	360	3.4%	-360	-
								-50.0%	-
親会社の所有者に帰属する 当期利益		537	4.9%	270	2.5%	270	2.5%	-267	-
								-49.7%	-
EPS*1 (円)		152.49		78.03		78.05			
為替レート (円、指数)	USD	¥110.86		¥107.00		¥108.00			
	EUR	¥128.40		¥118.00		¥120.00			
	その他通貨*2	100		92		93			
第4四半期の 為替前提(円)	USD	105.00	為替感応度(億円)*3	USD	EUR	その他通貨 合計	年間為替 影響額見込み		
	EUR	115.00		売上収益	△30	△15		△30	△420
				事業利益	+7	△10		△13	△160

*1 EPS：基本的1株当たり当期利益
 *2 その他通貨の各レートを為替ポリュームに応じて加重平均した値について、前期を100とした指数
 *3 USD/EURは1円の円高による年間影響額（億円）、その他通貨は1%の円高による年間影響額（億円）

- 通期業績予想は、セグメント別に修正をしましたが、連結合計は前回予想を据え置きました。
 売上収益は、10,600億円、
 事業利益は、420億円、
 当期利益は、270億円です。
- なお、前年度からの為替変動による影響額は、
 売上収益で、約420億円 のマイナス
 事業利益で、約160億円 のマイナスを見込みます。

前提

主要商品の市況回復が見込めない状況が継続

プリンティング
ソリューションズ

前提に大きな変更なく、第3四半期為替影響分を反映

- ・大容量インクタンクモデル 1,020万台販売予想に変更なし
- ・商業・産業IJPは、成長領域（サインージ・テキスタイルなど）での堅調な販売が継続

ビジュアル
コミュニケーション

プロジェクターの市況悪化の一方、市場の変化に対応し、効率的な事業運営を実施

ウェアラブル・
産業機器

ロボットは欧米の需要回復が遅れがあるものの、将来成長のために費用投下

特殊要因

プリントヘッド部品
在庫評価減計上方法変更

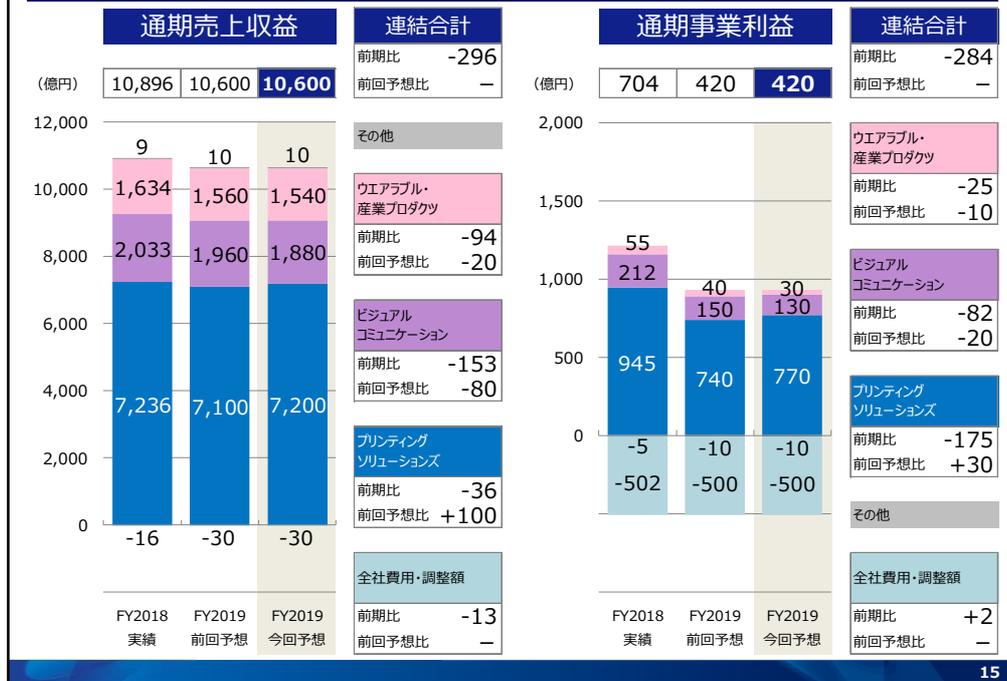
2018年度第4四半期には、プリンティングソリューションズの事業利益に一過性のプラス影響（約54億円）が発生したが、今期は発生しない

自然災害など

- フィリピン タール火山噴火 | Epson Precision (Philippines), Inc. の生産への影響は現時点では軽微であるが、再噴火への警戒、需要動向への注視を継続
- 新型コロナウイルス | 江蘇省、広東省の工場の生産への影響、中国国内外の需要動向を注視

- ここで、2019年度通期業績予想のポイントをご説明します。
- 外部環境は依然として厳しく、短期的な市況の回復は見込めない状況です。
- こうした中、プリンティングソリューションズにおいては、予想の前提に大きな変更は無く、第3四半期の為替影響分を反映しました。
- 大容量インクタンクモデルは、期初からの販売目標である 1,020万台に向けて、先進国・エマージング地域とも販売拡大を見込んでいます。
- また、商業・産業IJPでもマクロ環境が低調な中、サインージやテキスタイル向けなど、継続強化している領域で堅調な販売も継続しています。
- ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクターの市況悪化が継続しています。
- 市場の変化に適切に対応し、高光束プロジェクターなどの競争力ある商品を充実させるとともに、効率的な事業運営を実施していきます。
- ロボットは、欧米の需要回復が遅れています。
- 足元では主力市場の中国などで回復の動きも見られますので、引き続き成長のための準備を進めていきます。
- なお、プリンティングソリューションズでは、前年の第4四半期にプリントヘッド部品の在庫評価減計上方法変更に伴い、事業利益に一過性のプラス影響がありました。
- また、1月12日に発生した、フィリピンのタール火山の噴火影響や、新型コロナウイルスによる影響は、現時点では、生産への大きな影響は発生していませんが今後の動向への注視を続けていきます。

2019年度 通期業績予想 | 事業セグメント別



- こちらは、売上収益、事業利益のセグメント別内訳です。
- 以降のスライドで、セグメント別に予想の前提をご説明します。

プリンティングソリューションズ	2018年度 実績	2019年度 前回予想	2019年度 今回予想	(億円)	
				前期比	前回予想比
売上収益	7,236	7,100	7,200	-36	+100
プリンター	5,059	4,790	4,840	-219	+50
構成比 IJP ^{*1}	84%	84%	84%		
SIDM	8%	7%	7%		
その他	8%	9%	9%		
プロフェッショナルプリンティング	1,980	2,070	2,100	+119	+30
その他	197	240	260	+62	+20
事業間売上収益	-1	0	0	+1	-
セグメント利益	945	740	770	-175	+30
セグメント利益率	13.1%	10.4%	10.7%		
◆ 販売動向 (社内管理値に基づく指標)	FY18 実績	FY19 前回予想	FY19 今回予想		
IJP本体 販売台数伸長率	-4%	+2%	+2%		
IJP本体 販売台数 (約、万台)	1,540	1,580	1,580		
内 大容量インクタンク	900	1,020	1,020		
内 SOHO・ホーム向け	610	520	520		
IJPインク売上収益 (円貨) 伸長率	-1桁%台後半	-11%	-10%		
IJP内オフィス共有IJP ^{*2} 売上収益比率	1桁%台後半	10%	9%		
プロフェッショナルプリンティング内 商業・産業IJP売上収益比率	60%台前半	64%	64%		

プリンター

- ◆ 厳しい環境は継続するもの予想通りの進捗
- ◆ 大容量インクタンクモデルの通期販売台数 1,020万台に変更なし

プロフェッショナルプリンティング

- ◆ 商業・産業IJPなどで堅調に推移

その他

- ◆ PC販売の好調を織り込む

*1 IJPCは、大容量インクタンク、SOHO・ホーム、オフィス共有を含む
*2 オフィス共有IJP：高プリントボリュームオフィス向けプリンター。I/Cモデル、RIPS、LDの本体・インクを含む。後継・有償サービスは除く

- プリンティングソリューションズの通期予想はご覧の通りです。
- 先ほどご説明した通り、第4四半期の前提には大きな変化はなく、予想変更の大部分は第3四半期の為替影響分を反映したことにあります。
- その他は、PC販売が好調である分を反映しています。
- なお、セグメント利益に占めるプリンター事業の割合は、4割半ば程度となります。

2019年度 通期予想 | ビジュアルコミュニケーション ウェアラブル・産業プロダクツ



(億円)

ビジュアルコミュニケーション	2018年度 実績	2019年度 前回予想	2019年度 今回予想	前 期 比	前 回 予 想 比	プロジェクター ◆ 市況悪化が継続
売上収益	2,033	1,960	1,880	-153	-80	
セグメント利益	212	150	130	-82	-20	
セグメント利益率	10.4%	7.7%	6.9%			
◆ プロジェクターの販売動向 (社内管理値に基づく指標)	FY18 実績	FY19 前回予想	FY19 今回予想			
本体 販売数量伸長率	+1%	-4%	-6%			
本体 販売数量 (約、万台)	260	250	250			

(億円)

ウェアラブル・産業プロダクツ	2018年度 実績	2019年度 前回予想	2019年度 今回予想	前 期 比	前 回 予 想 比	ウェアラブル機器 ◆ 引き続き厳しい市場環境であるが、 予想通り
売上収益	1,634	1,560	1,540	-94	-20	
ウェアラブル機器	498	460	460	-38	-	
ロボティクスソリューションズ	226	210	200	-26	-10	
マイクロデバイス他	966	940	930	-36	-10	
事業間売上収益	-58	-50	-50	+8	-	
セグメント利益	55	40	30	-25	-10	
セグメント利益率	3.4%	2.6%	1.9%			
						ロボティクスソリューションズ ◆ 欧米向け需要の回復遅れ
						マイクロデバイス他 ◆ 環境に大きな変化は無い

17

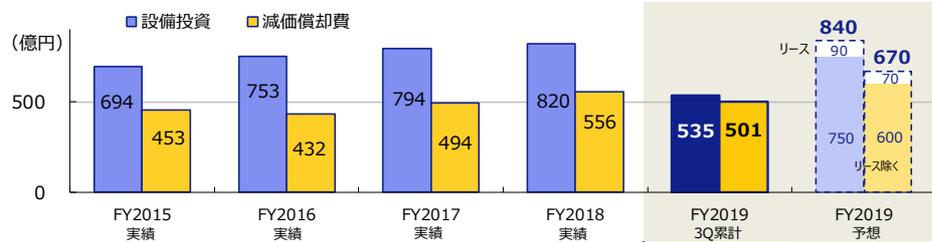
- ビジュアルコミュニケーション、および、ウェアラブル・産業プロダクツの通期予想はご覧の通りです。
- 両セグメントとも予想を引き下げました。
- ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクターのスタンダードモデルを中心に販売台数予想を引き下げています。
- ウェアラブル・産業プロダクツでは、ロボティクスソリューションズにおいて、顧客の広がりや中国向け需要に回復の兆しが見られるものの、前回予想に対しては、欧米向け拡大が遅れている影響を反映しました。
- マイクロデバイス他は、半導体、水晶デバイスの予想に大きな変化はありません。

主要費用・設備投資

研究開発費



設備投資・減価償却費



	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
プリンティングソリューションズ	296	277	450	390
ビジュアルコミュニケーション	81	87	150	120
ウェアラブル・産業プロダクト	107	77	150	100
その他・全社費用	49	59	90	60

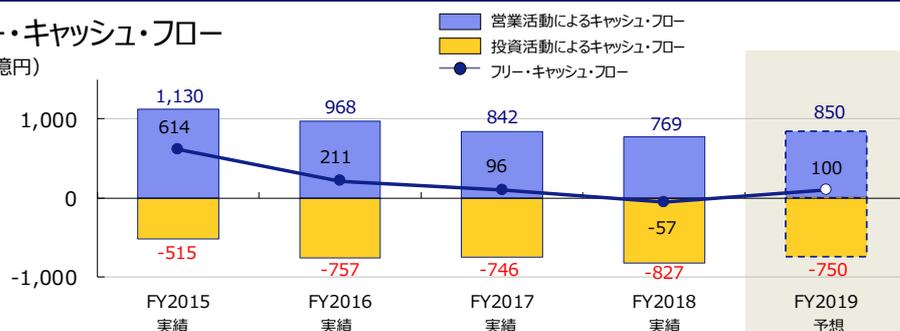
FY2019 予想にはリースを含む

- 研究開発費、および設備投資、減価償却費の実績ならびに予想は、ご覧のとおりです。
- いずれも、前回予想から変更ありません。

フリー・キャッシュ・フロー/主な経営指標

フリー・キャッシュ・フロー

(億円)



主な経営指標

(%)

	FY2015 実績	FY2016 実績	FY2017 実績	FY2018 実績	FY2019 予想
ROS 売上収益 事業利益率	7.8	6.4	6.8	6.5	4.0
ROA 資産合計 事業利益率	8.7	6.9	7.4	6.8	3.9
ROE 親会社所有者帰属持分 当期利益率	9.5	10.1	8.3	10.2	5.1

19

- フリー・キャッシュ・フローおよび主な経営指標も前回予想から変更ありません。
- フリー・キャッシュ・フローは、前年度の第3四半期末の累計では、100億円を超えるマイナスとなっていました。今期は、キャッシュ創出に向けて在庫水準の見直しなどを進めていることもあり、第3四半期末の累計で85億円まで進んでいます。

- 2019年度 第3四半期決算
- 2019年度 通期業績予想
- 成長に向けた取り組みの進捗

◆ 来期以降につながる取り組みは着実に前進

顧客接点の強化

オフィス共有IJP 日本での教育機関向け「アカデミックプラン」提供開始

SOHO・ホーム向けIJP 欧州の新たなサブスクリプションサービス開始
大容量インクタンクモデル (2020年2月～)

商業・産業IJP 商業・産業IJP向け「Color Control Technology」展開



ラインアップ拡大・新商品投入

オフィス共有IJP 高速ラインインクジェット複合機ラインアップ追加

商業・産業IJP デジタル化で拡大する市場に向けてラインアップ拡充

プリントヘッド外販 新規顧客との商談が進展

ロボット ラインアップ拡充・小型軽量分光カメラなどの周辺機器によるアプリケーションの拡大、ロボット管理システムの開発



21

- 成長に向けた取り組みのうち、今回は、顧客接点の強化と、ラインアップ拡大についてご説明します。
- 顧客接点強化の取り組みについては、こちらに示したように、オフィスや学校、SOHOやご家庭など、お客様ごとに多様な販売プランやサービスの提供を進めています。
- 日本では教育機関向けに「アカデミックプラン」が始まり、また、29日にリリースしたとおり欧州でも新たなサブスクリプションプランの提供が始まります。
- お客様と直接つながることは、新たなビジネスを生み出す原動力にもなりますので、今後も、この取り組みは強化していきます。
- 商業・産業分野では、「Color Control Technology」を核としたソリューションの提供も始まっています。プリンターごと、メディアごとの色調整を容易にするサービスであり、印刷のデジタル化や、分散印刷を進めるうえでのキーとなる取り組みだと考えています。
- ラインアップ拡大にむけた、新製品の開発や市場投入も進みました。
- オフィスや商業・産業向けにも、新たなラインアップが追加され、さらには、次なるモデル投入に向けての準備も進んでいます。
- また、昨年の夏にはPrecisionCoreプリントヘッドの新工場も稼働を開始しており、プリントヘッド外販ビジネスの強化にも着手しています。
外販用プリントヘッドのラインアップが広がると同時に、中国メーカーなどでの採用も進み、エプソンのプリントヘッドが搭載された大判プリンターも世の中に生まれ始めており、来期に向けて期待できる状態になってきました。
- ロボットでも、コア技術を最大限活用したラインアップ拡充が着々と進んでいます。
- 足元の外部環境は大変厳しい状況ですが、来期以降につながる取り組みは着実に前進しています。これからも、緩めることなく、進めてまいります。
- 以上

補足資料

2019年度 第3四半期累計 | ハイライト



	2018年度		2019年度		前年同期比		
	(億円)	3Q累計実績	%	3Q累計実績	%	増減額	増減率
売上収益		8,290		7,959		-330	-4.0%
事業利益		583	7.0%	368	4.6%	-215	-36.9%
営業利益		581	7.0%	370	4.6%	-211	-36.4%
税引前利益		588	7.1%	364	4.6%	-224	-38.1%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益		459	5.5%	245	3.1%	-213	-46.6%
EPS*1 (円)		130.36		70.51			
為替レート (円、指数)	USD	¥111.11		¥108.65			
	EUR	¥129.50		¥121.08			
	その他通貨*2	100		94			

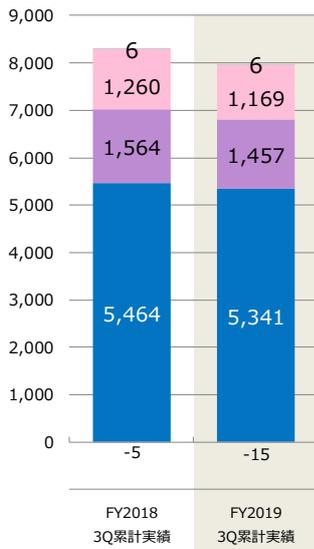
*1 EPS：基本的1株当たり当期利益
*2 その他通貨の各レートを為替ボリュームに応じて加重平均した値について、前期を100とした指数

前年同期に対する 為替影響額 (億円)	USD	EUR	その他 通貨合計	合計
売上収益	-53	-86	-122	-262
事業利益	+16	-52	-61	-97

2019年度 第3四半期累計 | 事業セグメント別

3Q累計売上収益

(億円) 8,290 **7,959**



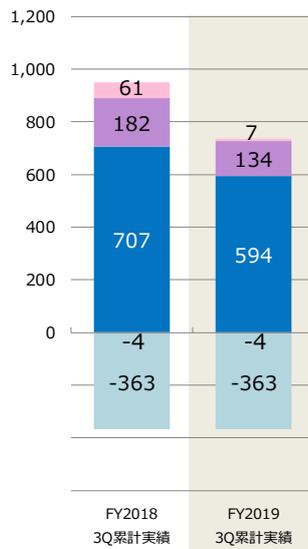
連結合計

前期比 -330

ウェアラブル・産業プロダクト	前期比 -90
ビジュアルコミュニケーション	前期比 -106
プリンティングソリューションズ	前期比 -123
全社費用・調整額	前期比 -10

3Q累計事業利益

(億円) 583 **368**



連結合計

前期比 -215

ウェアラブル・産業プロダクト	前期比 -54
ビジュアルコミュニケーション	前期比 -47
プリンティングソリューションズ	前期比 -113
全社費用・調整額	前期比 +0

(億円)

プリンティングソリューションズ	2018年度 3Q累計	2019年度 3Q累計	前年 同期比	為替 影響額
売上収益	5,464	5,341	-123	-181
プリンター	3,839	3,620	-218	
構成比				
IJP	84%	84%		
SIDM	8%	7%		
その他	8%	9%		
プロフェッショナルプリンティング	1,495	1,509	+14	
その他	131	211	+80	
事業間売上収益	-0	-0	+0	
セグメント利益	707	594	-113	-62
セグメント利益率	13.0%	11.1%		

(億円)

ビジュアルコミュニケーション	2018年度 3Q累計	2019年度 3Q累計	前年 同期比	為替 影響額
売上収益	1,564	1,457	-106	-59
セグメント利益	182	134	-47	-28
セグメント利益率	11.7%	9.2%		

(億円)

ウェアラブル・産業プロダクツ	2018年度 3Q累計	2019年度 3Q累計	前年 同期比	為替 影響額
売上収益	1,260	1,169	-90	-22
ウェアラブル機器	386	350	-36	
ロボティクスソリューションズ	175	153	-21	
マイクロデバイス他	741	708	-32	
事業間売上収益	-42	-42	+0	
セグメント利益	61	7	-54	-7
セグメント利益率	4.9%	0.6%		

四半期 売上収益推移 | 事業セグメント別

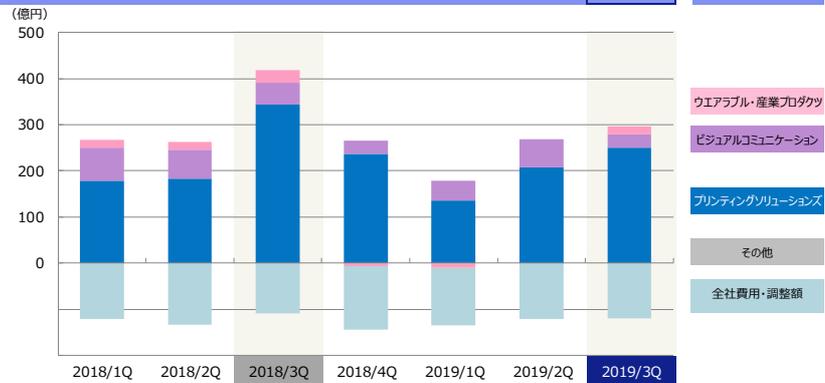


為替レート (円)	USD	109.06	111.46	112.80	110.14	109.93	107.31	108.72	-4.08
	EUR	130.09	129.66	128.73	125.13	123.54	119.34	120.35	-8.38
売上収益 (億円)		2018/1Q	2018/2Q	2018/3Q	2018/4Q	2019/1Q	2019/2Q	2019/3Q	前年同期比
プリンティングソリューションズ		1,666	1,780	2,017	1,772	1,632	1,780	1,929	-88
ビジュアルコミュニケーション		514	539	510	468	492	496	468	-41
ウェアラブル・産業プロダクト		431	409	419	374	381	393	394	-24
その他		2	2	2	2	2	2	2	-0
全社費用・調整額		-9	-13	17	-11	-11	-7	3	-13
連結合計		2,604	2,719	2,966	2,606	2,496	2,664	2,798	-168



四半期 事業利益推移 | 事業セグメント別

為替レート (円)	USD	109.06	111.46	112.80	110.14	109.93	107.31	108.72	-4.08
	EUR	130.09	129.66	128.73	125.13	123.54	119.34	120.35	
事業利益 (億円)	2018/1Q	2018/2Q	2018/3Q	2018/4Q	2019/1Q	2019/2Q	2019/3Q	前年同期比	
プリンティングソリューションズ	179	183	344	237	136	207	250	-94	
ビジュアルコミュニケーション	71	63	47	29	43	61	29	-18	
ウェアラブル・産業プロダクト	17	16	27	-6	-10	-0	17	-10	
その他	-1	-0	-1	-0	-2	-1	-1	-0	
全社費用・調整額	-120	-134	-108	-138	-123	-120	-118	-9	
連結合計	146	127	309	121	45	146	176	-132	



海外売上収益・従業員数

海外売上収益

為替レート (円)	USD	109.06	111.46	112.80	110.14	109.93	107.31	108.72	-4.08
	EUR	130.09	129.66	128.73	125.13	123.54	119.34	120.35	-8.38

売上収益 (億円)	2018/1Q	2018/2Q	2018/3Q	2018/4Q	2019/1Q	2019/2Q	2019/3Q	前年同期比
米州	755	821	770	757	745	717	712	-57
欧州	528	520	636	566	479	537	593	-42
アジア・オセアニア	792	794	761	675	725	758	744	-16
海外売上収益計	2,076	2,137	2,168	1,999	1,951	2,014	2,051	-117
連結合計	2,604	2,719	2,966	2,606	2,496	2,664	2,798	-168

構成比	2018/1Q	2018/2Q	2018/3Q	2018/4Q	2019/1Q	2019/2Q	2019/3Q
米州	29.0%	30.2%	26.0%	29.1%	29.9%	26.9%	25.5%
欧州	20.3%	19.1%	21.5%	21.7%	19.2%	20.2%	21.2%
アジア・オセアニア	30.4%	29.2%	25.7%	25.9%	29.1%	28.5%	26.6%
海外売上収益計	79.7%	78.6%	73.1%	76.7%	78.2%	75.6%	73.3%

従業員数

期末従業員数 (人)	2017/3末	2017/12末	2018/3末	2018/12末	2019/3末	2019/12末	前期末比
国内	19,175	19,594	19,436	19,614	19,456	19,789	+333
海外	53,245	59,249	56,955	58,753	57,191	58,052	+861
連結合計	72,420	78,843	76,391	78,367	76,647	77,841	+1,194

主な業績指標

(億円)

項目	項目	FY2018	FY2019	FY2021
		実績	予想	第2期中計目標
為替レート	USD	110.86	108.00	110.00
	EUR	128.40	120.00	125.00
プリンティング	売上収益	7,236	7,200	7,800
ソリューションズ	セグメント利益	945	770	-
ビジュアル	売上収益	2,033	1,880	2,250
コミュニケーション	セグメント利益	212	130	-
ウェアラブル・産業プロダクト	売上収益	1,634	1,540	1,950
	セグメント利益	55	30	-
その他	売上収益	9	10	-
	セグメント利益	-5	-10	-
全社・調整額	売上収益	-16	-30	-
	セグメント利益	-502	-500	-
連結合計	売上収益	10,896	10,600	12,000
	事業利益	704	420	960
	ROS	6.5%	4.0%	8%
	ROE	10.2%	5.1%	継続的に10%以上

(億円)

項目	FY2018 実績	FY2019 予想	Epson 25 第2期3年累計 目標
USD	110.86	108.00	110.00
EUR	128.40	120.00	125.00
営業CF	769	850	3,700程度
FCF	-57	100	1,700程度
研究開発費	582	550	積極的に投下
設備投資	820	840	
リース除く	820	750	2,000程度

主要製品の販売動向

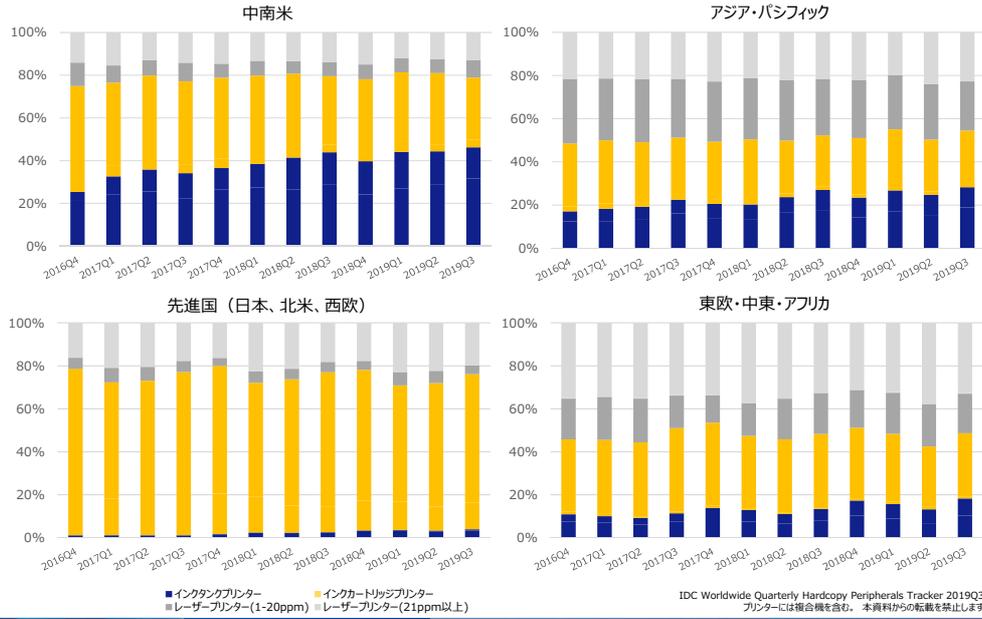
本資料は、エプソン内部の管理値に基づき指標です。伸長率はYoY

* オフィス共有IJP：高プリントボリュームオフィス向けプリンター
I/Cモデル、RIPS、L1Jの本体・インクを含む。後務・有償サービスは除く

				FY2018 通期 実績	FY2019 1Q 実績	FY2019 2Q 実績	FY2019 3Q 実績	FY2019 通期 予想
		USD		110.86	109.93	107.31	108.72	107.00
		EUR		128.40	123.54	119.34	120.35	118.00
プリンティング ソリューションズ	IJP 本体	売上収益（円貨）	伸長率	前期並み	-6%	+0%	-1%	+2%
		売上収益（現地通貨）	伸長率	-	-2%	+5%	+3%	-
		本体数量	伸長率	-4%	-7%	+6%	+2%	+2%
		本体数量	台数	約1,540万台	-	-	-	約1,580万台
		内 大容量インクタンク	台数	約900万台	-	-	-	約1,020万台
		内 SOHO・ホーム	台数	約610万台	-	-	-	約520万台
	IJP インク	インク売上収益比率 インク÷(本体+インク)	構成比	約50%	-	-	-	47%
		売上収益（円貨）	伸長率	-1桁%台後半	-9%	-6%	-12%	-10%
	オフィス共有 IJP* 本体+インク	売上収益（現地通貨）	伸長率	-	-8%	-2%	-9%	-
		IJP内売上収益比率	構成比	1桁%台後半	8%	8%	8%	9%
	SIDM 本体	売上収益（円貨）	伸長率	-1桁%台後半	-15%	-14%	-16%	-17%
		売上収益（現地通貨）	伸長率	-	-12%	-10%	-12%	-
本体数量		伸長率	-6%	-14%	-10%	-10%	-13%	
商業・産業 IJP 本体+インク	プロフェッショナルプリンティング 事業内売上収益比率	構成比	60%台前半	63%	63%	66%	64%	
ビジュアル コミュニケーション	プロジェクター 本体	売上収益（円貨）	伸長率	+1桁%台前半	-4%	-8%	-7%	-7%
		売上収益（現地通貨）	伸長率	-	-1%	-3%	-3%	-
		本体数量	伸長率	+1%	-8%	-9%	-4%	-6%
		本体数量	台数	約260万台	-	-	-	約250万台

大容量インクタンクモデルの浸透（数量構成比）

A4サイズプリンタータイプ別市場推移（暦年）



Color Control Technology	商業・産業印刷における色再現性を高めるカラーマネジメント技術
Epson Connect	エプソンの商品・サービスを対象としたモバイル・クラウドサービス
I/C	Ink Cartridge, インクカートリッジ
IJP	Inkjet Printer, インクジェットプリンター
LIJ	Line Inkjet Printer, 高速ラインインクジェット複合機
LP	Laser Printer, レーザープリンター（複合機含む）
RIPS	Replaceable Ink Pack System, 大容量インクパックモデル
SIDM	Serial Impact Dot Matrix Printers
SOHO	Small Office Home Office, 小規模オフィス・ホームオフィス
オフィス共有IJP	商品カテゴリの1つ。高プリントボリュームオフィス向けプリンター。I/Cモデル, RIPS, LIJを含む
フォト	フォト、グラフィックス、プルーフ、CAD印刷向け大判プリンターなどが含まれる
商業・産業IJP	商品カテゴリの1つ。商業・産業用途向け大判インクジェットプリンター
大容量インクタンクモデル	エコタンク搭載インクジェットプリンター
大容量インクモデル	大容量インクカートリッジモデル、大容量インクタンクモデル、大容量インクパックモデル（RIPS）、高速ラインインクジェット（LIJ）の総称
分散印刷	同一内容の印刷物を複数のプリンターを用いて印刷する方法
3LCD	プロジェクター方式の1つ。液晶パネル3枚を使う方式
FPD	Flat Panel Display, フラットパネルディスプレイ
OLED	Organic Light Emitting Diode（有機EL）
高光束プロジェクター	交換レンズ機能付き高輝度プロジェクター
WP	ウェアラブル機器事業
MD他	マイクロデバイス他事業

イノベーション	インクジェットイノベーション	ビジュアルイノベーション	ウェアラブルイノベーション	ロボティクスイノベーション	
セグメント	プリンティングソリューションズ	ビジュアルコミュニケーション	ウェアラブル・産業プロダクト		
事業 ・ 主要製品	<p>プリンター</p> <p>大容量インクタンクモデル</p> <p>SOHO・ホーム</p> <p>インカードラッジモデル</p> <p>オフィス共有</p> <p>大容量インクパックモデル(RIPS)</p> <p>高速ラインインクジェット複合機 (LII)</p> <p>オフィス向けインカードラッジモデル</p> <p>SIDM PaperLab スキャナー レーザープリンター</p> <p>プロフェッショナルプリンティング</p> <p>商業・産業IJP POS</p> <p>フォト サイネージ テキスタイル ラベル ヘッド外販</p> <p>PC他</p> <p>エプソンサイレクPC</p>	<p>プロジェクター</p> <p>高光束</p> <p>超短焦点</p> <p>スタンダード・ホーム</p> <p>小型 ライティング</p> <p>スマートグラス</p>	<p>ウェアラブル機器</p> <p>エプソンブランド</p> <p>TRUME</p> <p>オリエント</p> <p>ムーブメント</p> <p>セイコービジネス</p>	<p>ロボティクスソリューションズ</p> <p>ロボット</p> <p>6軸</p> <p>自律型双腕ロボット</p> <p>ICハンドラー</p> <p>オプション</p>	<p>マイクロデバイス他</p> <p>マイクロデバイス</p> <p>水晶</p> <p>半導体</p> <p>微細合金粉末</p> <p>表面処理加工</p>

EPSON
EXCEED YOUR VISION